

# CNA Report Japan

Newsletter focused on  
Collaborative conferencing

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 6. No. 17 2004 年 10 月 31 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 [k@cna.jp](mailto:k@cna.jp) Copyright 2004 Kay Office All rights reserved.

## ニュースダイジェスト

### ■日本テレコムとポリコム、ソリューション事業提携

日本テレコム(東京都中央区)とポリコム(東京都千代田区)は、テレビ会議サービス「Synchronet(シンクロネット)マネージドテレビ会議」において取り扱っているポリコムのテレビ会議端末に、新たに低価格のテレビ会議セットトップタイプの新機種「Polycom V500」をラインナップ追加し SOHO および中小企業向けのテレビ会議ソリューションの強化を図る。

「Synchronet マネージドテレビ会議」は、法人向け IP-VPN サービス「Solteria」および法人向けインターネット接続サービス「ODN-Biz」の利用ユーザーに対してテレビ会議端末とネットワークサービスを組み合わせて提供するサービス。テレビ会議ネットワーク構築に必要な機器の提供、導入、保守をユーザーに対して一括して提供する。

Polycom V500 は、低価格で少人数の会議に必要な機能のみを厳選した製品ながら Polycom VSX シリーズと同じソフトウェアプラットフォームで開発されている。映像符号化方式に国際標準 H.264 を、また AES 暗号化、CD 音質に迫る Siren14 による 14kHz ワイドバンド音声などの機能に対応しているためコストパフォーマンスが高く、中小企業や SOHO などの専任のネットワーク管理者がいない企業であっても初期投資や運用コストを大幅に抑えることができると両社は見る。V500 は、北米では 2004 年 5 月に発表、日本では今回が初めての発表となる。

今回の提携について、両社は、ユーザーに付加価値の高いテレビ会議ソリューションを提供するには、通信事業者と機器メーカーとの連携が重要と見ている。「90年代に比べ機器の価格が1/4に下がり、市場拡大を阻害していた要因が緩和されてきたため、昨今テレビ会議普及への環境は整ってきたが、ブロードバンド IP 化、ある一定の通信品質の保持、インフラの違いをカバーしどう

やってお客様へ提供するかという課題がある。また、それに併せてテレビ会議用の適切なネットワーク構築・管理の重要性が増している。そういった中で、日本テレコムは、品質の高い一定の品質を保てる IP ネットワーク、日本全国のカバレッジ、ワールドワイドでの運用実績などを持つ。」(ポリコム代表取締役社長 奥田智巳氏)

また、日本テレコム プロダクト統括本部 ネットワークプラットフォーム本部長前田清登氏は、「いろいろと製品を検討したが、ポリコムの製品がベストと見た。ポリコムとの提携により日本テレコムの付帯事業や付加価値サービスの強化を図りたいと考える。当社が持つ多数の法人顧客に同ソリューションを提案していきたい。」と、両社は今回の提携の意義と抱負を述べる。



### Polycom V500

Polycom V500 はレンタルで提供され、ユーザーのネットワークの利用形態に合わせて、センドバック、平日 9-17 保守、平日 9-22 時保守、24 時間 365 日保守などの保守サービスから選択できる。1 年契約、2 年契約、3 年契約とある。

たとえば、3 年契約センドバック月額費用(機器+保守+ヘルプデスク)で、価格は 12,390 円からとなっている。2005 年 1 月末日までに V500 申し込みの場合は、キャンペーンを行っており、前述の 3 年契約センドバック月額費用は、9,870 円からとなっている。(税込)別途設置、操作説明も 1 台につき基本的に 5 万円弱程度で受ける。

提供の開始日は、2004年10月25日から。

【編集長コメント】今回の日本テレコム、ポリコム合同記者発表で公表されたフロスト & サリバン社 (<http://www.frost.jp/>) の2004年度調査レポート(グラフ)によると、日本のテレビ会議市場は、2003年約6000万USD(約66億円)だが、2010年には、約2億USD(約220億円)になると予想されている。また、マーケットシェアについては、ポリコムが60%、ソニーが30%、タンバークが8.4%、その他1.3%。

■メディアプラス、Codian 社の MCU を日本で発売



Codian MCU 4200 シリーズ

メディアプラス(東京都千代田区)は、米Codian(コーディネアン)社の IP ネットワーク用マルチメディア・カンファレンス・ユニット MCU 4200 シリーズ(MCU:多地点接続装置)の日本での総販売代理店契約を締結し、10月から発売した。コーディネアン社は、米シスコシステムズ社をスピンアウトしたスタッフが起こしたベンチャー。同社代表取締役の尾崎修司氏によると、「MCU は、一般的にシステム的に不安定な面があるが、このコーディネアン社の MCU は、その点非常に安定しているしコストパフォーマンスに優れた製品。テレビ会議端末機に近い販売価格を実現している。」とコーディネアン MCU の優位性を指摘する。

映像符号化方式	H.261,H.263,H.263+, H.263++, H.264
解像度	QCIF, CIF, 4CIF, VGA
音声符号化方式	G.711,G.722,G.722.1,G.728,G.729 * G.722.1(オプション)

Codian MCU 4200 でサポートされている符号化方式

MCU 4200 シリーズは、1U タイプのカンファレンスサーバーで 20 拠点用の MCU4210、40 拠点用の MCU4220 の 2 モデル(ネットワーク専用モデル、カスタムオーダーで 80 拠点まで対応)がある。各拠点が 2Mbps までの帯域を使って



MCU に接続が可能で、音声だけの端末も上記同数の拠点が接続できる。最新の映像符号化方式 H.264 に対応して(写真上:多地点接続画面:テレビ会

議端末リモコンでの操作)おり、また、ダイヤルイン、ダイヤルアウト機能、トランスコード・トランスレート機能、ストリーミング配信機能(マルチキャスト(無制限)及びユニキャスト(MCU4210 が100カ所、4220 が 200 カ所)などの機能も内蔵する。

(次ページへ続く)

-----<AD>-----



アエスラ(Aethra Italy)

電話会議・テレビ会議  
世界第4位(Wainhouse データ)  
のテレビ会議メーカー

<http://www.aethra.co.jp>



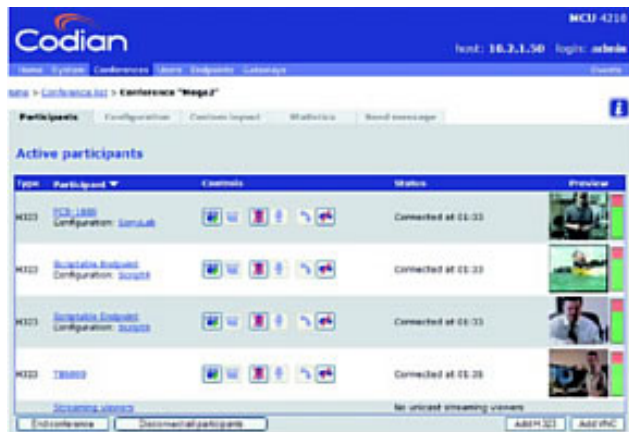
<広告>イスラエル VCON のテレビ会議製品情報(日本語):  
-日本地方自治体等導入実績  
-PC タイプのテレビ会議システムからセットトップタイプのものから MXM メディアエクステンジサーバー、MCU、ストリーミング、開発ツールキットなど幅広いニーズに対応。テレビ会議メーカー、大手5社に入る。

H.323 対応 PC 用会議システム vPoint HD H.264 対応

VCON <http://www.vcon.com>

-----<AD>-----

その他、特長としては、(1)画面分割は、42種類のパターンの中から選べる、(2)テレビ会議端末のリモコンから会議室の作成あるいは選択が可能、またウェブにログインすることにより会議設定も行える、(3)テレビ会議端末から任意の拠点のカメラコントロールが可能、(4)ネットワークポートが2つ装備されそれぞれにIPアドレスを設定可能(オプション)などがある。



#### 会議制御画面(参加者表示、ミュートボタン、など)

ソフトウェアオプションとしては、ビデオファイヤウォールオプション、アドバンスドコンプレッションオプション、ハイレゾリューションオプションなどがある。また、MCU4210からMCU4220へのアップグレードに対応している。

価格的には、20拠点用で実売価格300万円前半を予定している。MCUの1ポートあたりの単価が20万円を切る価格となっているため、既存の他社の同様製品と比べ、「低価格ではあるが、機能、性能ともに既存の他社の同様製品と遜色はない。」(同社 代表取締役 尾崎修司氏)

尾崎氏は、業務用音響機器を販売・施工する音響特機(東京都千代田区)に勤めていたが、その会社から完全独立してメディアプラスを2年前に設立した。AV機器とテレビ会議関係を統合し連携させたシステムソリューションの構築を得意とし、いままで大手外資系など会議室とテレビ会議を統合したシステムを多数構築してきた実績がある。「AV機器とテレビ会議を統合したシステムを提供できるところはあまりないと思う。しかし、AV機器とテレ

ビ会議を統合することにより顧客に付加価値を提供することができ、なおかつ当社としても幅のある事業展開が行える。」(同社代表取締役 尾崎修司氏)それはAVマーケットの将来性を見越してのビジネスモデルと尾崎氏は自負している。

メディアプラスは、コーディネーションMCU以外には、テレビ会議システムとしてタンバーク製品、電話会議システムとしては、クリアワン製品、書画カメラではWolfVision製品、その他ではCrestron、Teleportecなどの製品を扱っている。

#### ■ NEC エンジニアリング、IP 画像伝送装置「VisualLink2000」発売



#### VisualLink2000

NEC エンジニアリング(東京都港区)は、小型で低価格な送受信機能を装備した画像伝送装置「VisualLink2000」を開発。VisualLinkシリーズにあらたに追加した。

VisualLink2000は、国際標準のMPEG2規格(1.5Mbps~6Mbpsに対応)に準拠し、ブロードバンドIPネットワークを利用した高品質な画像(高精細画(D1:720x480)30fps)とステレオ音声の送信または受信が可能。IP網専用とすることで同社従来機に比べ約6分の1の大きさに小型軽量化、そして価格は約2分の1とした。また、画像の送受信機能が両方内蔵されているため、簡単な操作で切り替えて使用することができる。リモコン操作でメニュー設定も可能。

VisualLink2000によって、テレビ放送やDVD画質と同等な画像、そしてステレオ音声を、ブロードバンドIPネットワークを利用して送信または受信することができる。防災システムや遠隔監視システムなどの構築に適した商品ではあるが、高性能のDSPを採用しているため、画像処理のソフトウェアを変更することによってさまざまな個別のシステムカスタマイズに柔軟に対応できる。

VisualLink2000の価格は、税抜98万円。年間1000台の出荷を見込む。画像ソフトウェアのカスタマイズやアプリケーション開発は個別の見積もり。すでに販売している上位

機種(VisualLinkTC5000EX200、TC5000EX100)について継続して販売。同製品は、NEC エンジニアリングのインターネットターミナル事業部が担当しており、上記製品以外にも、電話会議システム VoicePointIP、テレビ会議システム MediaPointIP、多地点会議システムなども開発販売している。

### ■NEC、H.264に対応した映像配信システム CEATEC にて参考出展

日本電気(東京都港区)は、「3GVirdnet H.264 コーデック対応映像ソリューション」と、「高品位映像伝送システム」を10月頭に開催されたCEATECで参考出展した。H.264 コーデック対応映像ソリューションは、エンコーダー、デコーダー、ソフトウェアビューアからなるシステムで、それらをIPネットワークと組み合わせることにより、遠隔モニターなどに活用できる。また、ゲートウェイを使うと3G携帯端末への映像配信も行える。遠隔カメラ制御、映像蓄積、ウェブによる設定などの特長がある。

「高品位映像伝送システム」は、同じく H.264 に対応しておりモバイル環境から無線公衆網を使い映像を配信することができるシステム。「モバイル高品位映像伝送装置」、「バンドリングルータ」、「H.264 ソフトウェアビューア」などからなる。「モバイル高品位映像伝送装置」で撮影した映像を H.264 にエンコードし、バルク転送でバンドリングルータへ送付。バンドリングルータは、そのバルク転送を受けてデコーダーとの通信を可能にする。H.264 ソフトウェアビューアは、送られてきた映像音声データをデコードし、パソコン上に表示再生させるアプリケーション。

### ■NTT サイバースペース研究所、スケーラブル映像 ソフトウェアコーデックを開発

NTT(東京都千代田区)は、MPEG-4 ASP/FGS に準拠したスケーラブル映像符号化(コーデック)方式と、その符号化方式を適用したサーバクライアント側の多地点通信会議システムを開発した。

スケーラブル映像符号化は、報道発表資料によると、映像の視聴者が画面の中で特に鮮明に見たい部分をより高画質に視聴可能とするもの。ネットワークの帯域や、

端末の能力に応じた任意の品質の映像視聴に加え、クライアント端末単位の要求によって、ある映像の一部の注視領域(ROI:Region of Interest)の画質を高め、他の領域の画質は相対的に抑えた符号化データを高速に取り出すことができる。

今後は、このコーデック技術を組み込んだ映像通信サービスを NTT グループ各社とともに連携して提供していくとともに、MPEG-4 ASP/FGS より圧縮効率の高い H.264/MPEG-4 AVC を利用したスケーラブル符号化の実現と検討を進める。

### ■米 LifeSize Communications 社、ポリコム経験者 を経営陣に 2 名起用

米 LifeSize Communications 社は、経営陣の強化を行った。Rob Hughes 氏は、ワールドワイドセールス担当上級副社長に、Matt Collier 氏は、コーポレート・ディベロップメント担当上級副社長に着任した。両者ともポリコムでの経験があり、Rob Hughes 氏は以前ポリコム在籍時には、アメリカチャネルセールス担当副社長でその後 VSGi 社を経て、LifeSize に入社する直前は、ラドビジョン社の南北アメリカ担当副社長兼ジェネラルマネージャーであった。

また、Matt Collier 氏は、ポリコムが 1997 年に買収した ViaVideo Communications 社のワールドワイドセールス・事業開発担当副社長、その後ポリコムで事業開発担当兼 OEM アライアンス担当副社長を経験。その後、IP セントレックスサービスの Terverse 社を創業、その後 Level 3 Communications 社に買収後、Level 3 社に移り、音声アプリケーションサービス担当上級副社長を経験。そして LifeSize へ着任。

【編集長橋本コメント】LifeSize Communications 社は、ポリコムからスピンアウトした Craig Malloy 氏、Michael Kenoyer 氏が設立した会社(2003年1月)で次世代のビジュアルコミュニケーション製品を現在開発中と言われている。今年7月、22億円もの増資が行われている。今年終わり頃あるいは年明け頃製品が発表されるのではないかと噂もある。(CNAリポート・ジャパン Vol.16 No.12 2004年7月31日)

号参照)

### ■米マイクロソフト、リアルタイムコラボレーション向けの次世代クライアント、「Microsoft Office Live Communications Server 2005」を発表

米マイクロソフトは、リアルタイムコラボレーション向けの次世代クライアントの計画をFall 2004 VONにて発表。、マイクロソフト日本法人のプレスリリースによると、Microsoft Office Live Communications Server, Microsoft Office Live Meeting によって構成されるシステムを前提に開発されるもので、インスタントメッセージング、プレゼンス情報、PC ベースの音声、ビデオ及び電話技術などを統合した総合的なコミュニケーション機能を提供する計画。このクライアントの開発コード名は、「Istanbul」と呼ばれる。Microsoft Office との連携も強化される。Istanbulの正式リリースは2005年の前半を予定している。

また、米マイクロソフトは、「Microsoft Office Live Communications Server 2005」を発表。Microsoft Office Live Communications Server 2005 は、Microsoft Office System の一部を構成する製品で、スタンダード版とエンタープライズ版がある。正式リリースは、12月からの予定。

スタンダード版では、MSN, AOL, Yahoo!などのIMとのプレゼンス情報の共有連携、ファイアーウォール環境でVPNでなくともセキュアな通信と認証によりリモートでのプレゼンス、IM情報の参照、1サーバーあたり15,000のIMユーザーの登録などが可能。また、エンタープライズ版では、マイクロソフトSQLサーバーを使ったより先進的なアーキテクチャーの採用、アクティブユーザーのキャパシティの強化などが特長としてある。

### ■NTTアドバンステクノロジー、会議向けのエコーキャンセラー「RealTalkシリーズ」、PC会議向け11月発売予定



RealTalk70

NTTアドバンステクノロジー(東京都三鷹市)は、ノイズリダクション機能付き高性能エコーキャンセラー「RealTalk シリーズ」を販売している。たとえば、パソコン会議などでは、通常ヘッドフォンなどを使うが、ハンズフリーにしようとする、エコーが回る。これを止めるための製品がエコーキャンセラー。

「RealTalk」は、テレビ会議、電話会議、PC会議などの使用環境でノイズやエコーを取り除きクリアな音声でハンズフリーのコミュニケーションを実現する装置。

「RealTalk シリーズ」は、ステレオ音声に対応しライブ中継や、会議などで話者の方向が容易に把握可能な機能を提供する「RealTalk 70ST」、テレビ会議や電話会議に適した「RealTalk70」、PC 会議向けの「RealTalk 71」(11月下旬発売予定)などがある。PC 会議向けでは、NTT-IT(神奈川県横浜市)の提供する MeetingPlaza 電網会議室サービスなどと組み合わせて使用し、PC会議をハンズフリーで行える。

### ショートニュース

◆米ファーストバーチャルコミュニケーションズ社は、同社のH.323対応のClick To Meetウェブ会議システム向けカスタマイズ用「ソフトウエア・ディベロップメント・プログラム(SDK)」を発表。カスタマイズは、3つのレベルで提供され、(1)会議室のページやユーザーインターフェイスなどのカスタマイズ、(2)外部アプリケーションをClick To Meetに組み込むカスタマイズ、(3)(2)の逆で、Click To Meetを外部のアプリケーションに組み込むカスタマイズ、となっている。FVCのClick To Meetは、日本では、ネットワンシステムズ(東京都品川区)が国内総販売代理店となっている。

◆NTT コミュニケーションズ(東京都千代田区)は、中小企業事業所向けIP電話サービス「OCN.Phone Office」の新機能として、「電話会議機能」を月額基本料無料で10月7日より提供する。電話会議機能は、事前の予約なしに利用でき、「OCN.Phone Office」のIP電話、一般電話、携帯電話、海外などから多地点での電話会議が行える。会議へはダイヤルアクセス型と呼出し型の2種類の方法がある。1 会議利用料は、1参加者あたり1分 25 円。そのほか会議への接続のための電話通話料金等がかかる。ただし、

OCN.Phone Office からの 050IP 電話による接続は無料。

◆FOMA、国際テレビ電話の接続先地域をシンガポールに拡大。NTTドコモは、同社の同じ W-CDMA 方式で第三世代移動通信サービスを展開しているシンガポールの Singapore Telecommunications 社(シングテル)との間で国際テレビ電話接続サービスを開始する。提供開始時期は、11月2日から。シンガポールは、イギリス、香港につづく3ヶ国目となる。

◆イタリアのテレビ会議メーカー、アエスラ社は、テレビ会議システム用のシステムソフトウェアのバージョンアップを発表した。新しいバージョンは、5.1.18。PPPoE 機能、LDAP&H.350(ディレクトリーサービス)サポート、GUI のカスタマイズなどが主な追加機能。

◆米アバイア社が、今年8月に発表した Spectel 社の買収は手続き的に完了した。買収額は1億300万USD(約109億円)。Spectel 社の210名の社員は、アバイア社の社員となる。今回の買収によってアバイア社は会議システムの製品群の強化を行う。(CNAリポート・ジャパン Vol.16 No.13 2004年8月15日号参照)

◆米 8x8 社は、1200万USD(約12億7000万円)の増資を発表。350万あまりの普通株を1株あたり3.42USDで発行する。加えてワラントも発行する。増資分は、Packet8 ボイス&ビデオコミュニケーションサービス事業の拡大、たとえば、ディスリビューションチャネルの充実、マーケティング活動やカスタマーサービス、オペレーション、セールスの強化などに主に使用される。

◆イスラエルのテレビ会議多地点接続装置などを開発する、ラドビジョン社は、南北アメリカ担当ジェネラルマネージャーに、JD Vaughn 氏を起用した。同氏は、Applied Global 社、ポリコム社、アコード社(ポリコムに買収)、ピクチャーテル社(ポリコムに買収)、ビデオサーバー社(現 Ezenia!) などでのこの業界での経験が豊富。また、TeleSpan Publishing(<http://www.telespan.com>)のコントリビューティングエディターも担当している。

◆電話会議サービスを提供する米プレミアコンファレンシング社は、IBM ロータス・インスタントメッセージング & Web コンファレンシングソリューション向けの電話会議サービスを提供する。IBM ロータスウェブ会議における音声部分などの機能をプレミアコンファレンシング社の電話

会議多地点接続サービスで提供する。

-----<AD>



**シード・プランニング TV会議** /

Web 会議のユーザー調査(500名)を実施! 導入理由、導入メーカー、利用頻度、利用時間数、拠点数、満足度等がわかる。

<http://www.seedplanning.co.jp>

-----<AD>

◆米ポリコムは、VSX シリーズ向けのシステムソフトウェアバージョン 7.5 を発表した。パソコンデータを高解像度コンテンツとして VSX シリーズのビデオ会議端末などに送受信が可能な「People+Content IP」、VSX7000 や VSX8000 と VTX1000 をダイヤル用あるいはマイクロフォンとして接続した環境での Polycom ステレオサラウンドのサポート、H.264 に対応した映像補正機能(VEC)などが含まれる。(米ポリコム 7.0 発表、CNAリポート・ジャパン Vol.16 No.11 2004年7月15日号参照)(ポリコム日本法人 7.0 発表、CNAリポート・ジャパン Vol.16 No.13 2004年8月15日号参照)

**【編集長橋本コメント】**別途、日本法人よりバージョン 7.5 の発表があるのではないかと思われる。米ポリコムで見ると、3ヶ月半での 0.5 アップグレードとなる。

◆米クアルコム社、ラドビジョン社の SIP ツールキットのライセンス契約を締結。クアルコム社は、同社の Qvideophone ソリューションなどの開発にラドビジョン社の SIP ツールキットを活用する。

◆ラドビジョン社は、マイクロソフトの Live Communication Server 環境で使用できるソフトウェアベースの多地点接続サーバーソフトを開発。その多地点接続サーバーソフトは、iVIEW ミドルウェアアプリケーションのひとつで Windows ベースのサーバーで動作するように設計されている。ラドビジョン社は、マイクロソフトの LCS との連携、統合を強化する。

◆VCON 社の H.264 対応デスクトップ PC テレビ会議ソフトウェア「vPoint HD」は、現在30日無料トライアルが同社ウェブサイトから可能になっている。ソフトウェアは基本的に 10 ライセンス(定価で 2,488USD、カメラ&マイク付きで、定価 3,738USD)毎の購入になるが、VCON 社の販売代理店によって 10 ライセンスよりも少ない数で販売も可能。また、ゲートキーパー、SIP プロキシ、マネージメントシステム、

ビデオ PBX 機能が一つになった MXM サーバーを購入の場合は、vPoint HD のライセンスが MXM に含まれるため追加費用がかからない。

◆シスコシステムズ(東京都港区)は、データ、音声、映像アプリケーションの高セキュアかつ高速な同時利用が可能なサービス統合型ルータ、Cisco Integrated Services Routers(ISR)を発表した。ISR は、音声サービスとセキュリティサービスを新たなプラットフォームに統合したもので、「Cisco ISR 1800 シリーズ」、「Cisco ISR 2800 シリーズ」、「Cisco ISR 3800 シリーズ」がある。たとえば IP テレフォニー関係であれば、音声サービス機能をルータに直接組み込むことにより、単一システム内でのデータと音声の同時伝送密度を大幅に向上させた。また、暗号化による音声通話の保護を実現し、音声通話の不正傍受を防ぐなどの機能を搭載している。

◆シスコシステムズ・インドは、シスコ IP フォンの出荷台数が 2001 年から開始して5万台に達したと発表。

## セミナーレポート

### NTT アイティ主催

### MeetingPlaza 第二回セミナー

### 国内トップシェア Web 会議「MeetingPlaza」で 実現する“時空超越型ビジネス”

日時:2004 年 10 月 29 日午後 1 時 30～午後 4 時 30 分  
場所:横浜ランドマークタワー

2004 年 10 月 29 日午後、横浜ランドマークタワーにて NTT アイティ主催の MeetingPlaza 第二回セミナーが開催された。

### 利用法人企業800社を超える

NTT アイティの MeetingPlaza 電網会議室の利用企業は、同社によると、ASPサービスとシステム販売両方を併せて800社を超えているという。このCNAリポート・ジャパン Vol.7 No.6 2004 年 4 月 15 日号では、600 社を超えたとレポートしているので、半年で 200 社増えたことになる。



セミナー会場(講演セッション:映像コラボレーション事業部 事業部長 加藤洋一氏)

### 当日のセミナー

当日は、MeetingPlaza の新しく追加された機能の紹介を中心に、米国ITトレンド事情や、もっとMeetingPlazaを活用する”製品紹介として、MeetingPlaza 会議をハンズフリーで行えるNTTアドバンステクノロジーのエコーキャンセラー製品「RealTalk シリーズ」、そして、ロジケールのウェブカメラ Qcam シリーズの紹介などが行われた。

### RealTalk を使ったハンズフリーの MeetingPlaza 会議

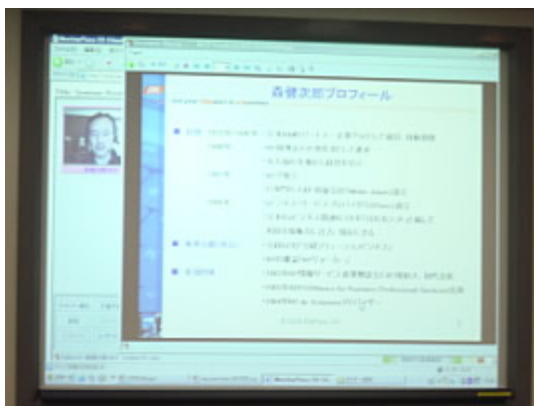
RealTalk シリーズの講演では、NTTアドバンステクノロジーメディアソリューション事業本部メディア応用事業ユニットユニット長 小島順治氏による RealTalk の製品紹介と、RealTalk を使ったハンズフリーでの MeetingPlaza 会議デモを NTT-IT 本社と会場を結び行った。

### NTT アイティとロジケールのジョイント数年前から

ロジケールのウェブカメラ Qcam シリーズは、MeetingPlaza の推奨ウェブカメラで、「NTT アイティとロジケールとのジョイントは数年前からだが、本格的には昨年からは。ウェブ会議においては当社が最初のジョイント。」(NTT アイティ同事業部営業部佐藤 秀哉氏)ロジケールは、53.04% の Web カメラマーケットシェアを持つ。ベスト10のうちの7品目がロジケール。

### NYから MeetingPlaza で講演、自宅の ADSL から

MeetingPlaza の米国での販売窓口になっているEBPass, Inc. (米・ニューヨーク)の 代表取締役社長 森健次郎 氏(写真下)が、ニューヨークの自宅(NYは深夜のため)からADSL接続で MeetingPlaza を使い「米国 ITトレンド 最新事情」について講演した。40分ほどの講演であったが、途中音声や映像などがとぎれることもなく、



講演後の質疑応答もスムーズに行われた。

内容的には、オフショアリング、ワイヤレスモバイル、RFID、IT産業とAV産業の融合、ブロードバンド事情、スパム、ネット音楽など幅広く現在の米国での最新IT事情についての幅広く紹介されて参加者の関心を引いていた。森氏は、現在日経 BP 社「日経ソリューションビジネス」に執筆中。

**MeetingPlaza 横浜、NY、北京、3拠点を結んだライブ・デモ**

次に、「MeetingPlaza 新機能のご紹介」と題して、NTT アイティ 映像コラボレーション事業部 事業部長 加藤洋一氏が講演。

まず、MeetingPlaza の共有機能についての紹介があり、ホームページ、写真などの共有、アプリケーション共有などの機能、そして、ホワイトボード上のアノテーション、エクセルの数値の変更、などの機能とスムーズな操作を披露した。

その後、今回 10 月に追加した機能について概要説明があり、そして、会場の横浜、ニューヨーク、北京の 3 拠点を接続してそれぞれのIT事情についてのパネルセッション的な討論会を MeetingPlaza でライブ・デモを行った。その間非常に安定しており、音切れ、映像の乱れなど全

くなかった。



ビデオ調整機能の4点。

(写真上: Discussion16)

**今回の新機能追加—画面レイアウトなど**

今回の機能追加では、(1)画面レイアウトの3タイプ追加、(2)回線速度の自動計測、自動設定機能、(3)音声設定ウィザード機能、(4)

**画面レイアウト3タイプ追加**

まず、会議室のレイアウトをユーザーが使用用途によって自由に GUI を選べる。GUIは3タイプ追加。今までのタイプと合わせて4タイプの画面からレイアウトの選択が可能になった。以下表は、追加された3タイプ。

<b>Presentation16</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・16名同サイズ同時表示型。</li> <li>・共有資料の見やすさを重視したプレゼンテーション向けのレイアウト</li> </ul>
<b>Discussion16</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・16名同時表示型</li> <li>・円卓型のレイアウト</li> <li>・ダブルクリックで任意の参加者を中央に表示</li> <li>・上部「Focus」ボタンクリックで自分の画像を全参加者の中央に表示可能。</li> </ul>
<b>Seminar16</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の質問に対して「○」「△」「×」の意思表示。</li> <li>・簡易集計機能付き。</li> </ul>

**回線速度の自動計測、自動設定機能**

次の機能追加としては、回線速度の自動計測、自動設定機能で、接続されている回線の実行速度を測定し、ネットワークの状況に応じてシステムを最適な状態に自動調整する機能。

**音声設定ウィザード機能**



音声設定ウィザード機能。パソコンのスピーカー、マイクの音量設定をシステムとの対話で簡単に最適化できる。メーターを見ながらマイクの音量を、モニター音を聞きながらスピーカーの音量を簡単に好みのレベルに設定できる。

### ビデオ調整機能

最後に、ビデオ調整機能については、ビデオ映像の動きと品質のバランスをわかりやすく調整できる簡単設定機能を搭載。専門用語、知識を知らなくてもビデオ映像の動きを環境と好みに合わせて微調整できる。たとえば、ビデオ通信設定では、「最小限のビデオ通信を行う。」から「最大限のビデオ通信を行う。」の4段階調整。品質設定では、「動き重視」や「画像サイズ重視」などの3段階での調整が行え、それに合わせてシステムがクライアント端末の動作環境を最適に自動設定する。

### 3ヶ月に一度は新機能追加

同社事業部長の加藤洋一氏によると、「3ヶ月に一度は新しい機能を追加していきたい。」とのことで、同社によると、次の機能追加は年明け頃に行われるようだ。

#### (終わり)

CNAリポート・ジャパン MeetingPlaza 関連記事：  
<http://cnar.jp/home/CNAarchive/CNA20040415.pdf>

#### 【連絡先】

NTT アイティ株式会社  
映像コラボレーション事業部  
〒231-0032 神奈川県横浜市中区不老町 2-9-1  
関内ワイズビル  
TEL:045-651-7555 FAX:045-224-6799  
e-mail: [isg@meetingplaza.com](mailto:isg@meetingplaza.com)  
<http://www.meetingplaza.com>

### ベトナムレポート

10月14日から17日までベトナムのハノイに行ってきた。ベトナムの会議市場はまだこれからという状況ではあるが、しかし、中国などの周辺諸国の影響を受けて企業数やFDI(直接投資)の増加、WTO加盟などの動きから、経済活動が活発になり、これらが遠因となって会議ツールへの需要は今後5年から10年後には大きく伸びてくる可能性があるのではないかという印象は持った。や

はり、会議ツール需要が伸びるためには、その前提の一つに、企業の経済活動などが活発になるというのがあると思われる。

### ポリコムの特ナムリセラーVISCO Joint Stock

ポリコム日本法人の紹介で、今回ベトナムのハノイにある、通信機器、プロジェクタ、遠隔監視など幅広い製品の販売



を行う VISCO Joint Stock 社を訪問する機会があった。VISCO Joint Stock 社は、ホーチミンに本社を置き、ハノイ、ダナンにそれぞれ支店がある。

テレビ会議システムについては、現在ポリコムの製品を扱っており、写

真上のブイ・ビー・フォアング氏が副ディレクターとして、同社のテレビ会議販売の責任者になっている。同氏はもともとホーチミンから単身赴任でハノイに来ているそうだが、このテレビ会議担当になって2年ぐらいだという。

同氏から見たベトナムの会議市場と通信市場についてお話を伺った。取材中には、IP接続でポリコム日本法人のデモサイトへの接続も行っていただいた。

### ハノイ-ホーチミン間での会議ツール利用多、政府系外資系が主なユーザー

現在ベトナムでは、テレビ会議、音声会議については、ハノイとホーチミンを接続しての利用形態が多く、テレビ会議は政府系機関や外資系のユーザーが多いが、電話会議については、端末がテレビ会議と比べ安いため、政府系、外資系以外にも多くのベトナム企業も利用しているようだ。しかし、PCでのウェブ会議については、フォアング氏によると、テレビ会議、電話会議に比べ新しいツールであるためこれからという見方を示していた。同氏によると、ベトナムでは企業にとっては、たとえて言えば、お金があれば、会議ツールよりも自動車を購入するのが一般企業の意識だと説明したのが非常に印象的だった。

### 日系企業はISDNでテレビ会議

同社では、ベトナムに進出している某日本バイクメーカーへポリコム製のテレビ会議を導入した。その日系企業では、ハノイとホーチミン、そして日本をISDNで接続して多地点会議を行っているようだ。その際には、テレビ会議システムに内蔵の多地点接続機能を使っている。

フォアング氏によると、多地点接続プロバイダーはまだベトナムにはないようで、複数拠点を接続する場合は、テレビ会議システムに内蔵された多地点接続機能を使って会議を行っているのが一般的とのこと。

おそらく、内蔵の多地点接続機能以上の多拠点を接続する場合は外国の同様のサービスを利用するという形態ではないかと思われる。

VISCO 社は、日系企業以外にも、台湾企業、欧州企業(通信メーカー)、マレーシア資本企業(石油)、などに導入している実績がある。

国内では、通信サービスなどを提供する VMPT(政府系企業)では、社内トレーニングやミーティングなどの利用のため、16 カ所にテレビ会議が設置されている。その他では、ベトナム政府、鉄道、電力企業などで利用されており、1対1のテレビ会議利用が多い。

### ISDN対IPは、8対2、IP化はこれから

テレビ会議のIP化であるが、フォアング氏によると、ベトナムでのテレビ会議ユーザーもIPを選択するケースが増えてきているようだ。ただ、専用線は高いため、大部分、8割方は、ISDNの従量課金で、384kbpsで行っているケースが多い。IP化は、専用線も含め2割程度。

最近では、ADSL サービスが、VDC、FPT、VMPT などから提供されているため、それらを利用する企業が増えている。Bui Vi Hoang 氏から教えていただいた、ADSL サービスは、下りが 2Mbps で上りが 512kbps などがあるので、IP テレビ会議は可能という。(100 万ドンから 300 万ドン: 7000 円から 2 万円程度、固定 IP アドレス付きなどによる。)国内では全然問題ないが、やはり国境を越える通信となるとボトルネックが発生するためクオリティが下がる。

### 【連絡先】

**Bui Vi Hoang**(ブイ・ビー・フォアング)

[buivihoang@hn.vnn.vn](mailto:buivihoang@hn.vnn.vn)

Deputy Director

VISCO Joint Stock <http://www.visco-vn.com/>

8B, Ngo Quyen Street, Hoan Kiem District, Hanoi.

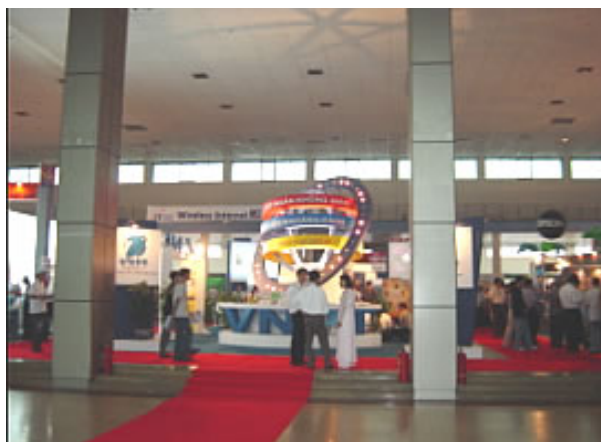
Tel: 844 9340788

Fax: 844 9340789

### VVC- 高価なテレビ会議システムは不要、ビジネスでもテレビ電話で十分!

ベトナムの VCC 社は、台湾 Leadtek 社のテレビ電話を販売しているが、同社のウェン・フェ・ホン(Nguyen Huy Hung)氏によると、今年は数百台単位でテレビ電話をベトナム国内で販売したようだ。来年は 1000 台以上販売したいと意気込む。

同氏からみると、ビジネスであっても、Leadtek などのテレビ電話で十分だと言っていた。何も高価なテレビ会議システムを購入しなくても、これらのテレビ電話で十分コミュニケーションができると力説していた。



Vietnam 2004 IT Week & COMPUTER EXPO 2004



VVC



台湾 Leadtek のテレビ電話を展示

### ベトナムの最近の動き

最近のベトナムでの経済状況に関する記事などを滞在中に、現地の英字新聞 Vietnam News から追ってみると、

-10月13日は Entrepreneurs day(起業家の日)、ハノイでは、政府と企業の経営者との会議が行われた。

-10月13日は、ホーチミン氏が1954年当時、国土の発展のため経済力の強化を発表した。それを記念して10月13日を、Entrepreneurs day の日とした。

-現首相は、経営者からの65項目にも及ぶ懇願書に基づき、ビジネスが行いやすい環境整備の一環として、政府関係のさまざまな手続き、規制、などの見直しを各省庁に指示。それに反した手続き、規制などを行った場合相当の罰則を適用すると発表。

-91年頃は、400社程度の民間企業であったが、昨年12万社まで拡大。ベトナム商工会議所は、この数字を2010年までに50万社まで拡大する目標を打ち出している。政府はこの目標を支持。

-来年からのWTO加盟をにらみ、生産力の強化を図る。また、生産コストの削減などにより競争力の強化を図る。

-中国は外国からの対国内投資(FDI)において昨年アメリカを追い越した。

-米、胡椒などの輸出競争力の強化。

-サービス事業分野は、ベトナムGDPの38%(2003年統計)であったが、今後の経済発展を考えた場合、サービス分野の強化は必須とみており、今後6年間年率10%の成長を達成すべしと政府見解を出した。現在7%弱で

の成長の伸び。2010年には、GDP比45%を目指す。

-ベトナム国連大使、国連で先進国からのODA(政府開発援助)の増加を訴える。

### まとめ

繰り返すが、VISCOのブイ・ビー・フォアング氏の、ベトナムでは企業にとっては、たとえて言えば、お金があれば、会議ツールよりも自動車を購入するのが一般企業の意識だと説明したのが非常に印象的だった。

ベトナムには初めて訪問したが、空港から市内に入ると道路はバイクの群れで、自動車はその間を申し訳なく走っている感じがした。これだとやはりお金があれば自動車という風になるのは理解できそうだ。

しかし、余談だが、バイクの人も自動車の人も譲るというよりは、自分が先に行く、という意識が強く、前に遅いのがいると、クラクションをしきりにならずという光景はしょっちゅうみた。いつぶつかってもおかしくない道路の状況で、実は私が乗っていたタクシーがバイクにぶつけられたが、バイクはそのまま逃げていった。タクシーのドライバが言葉はわからないが怒っているのがよく分かった。

ちなみに、この国の携帯電話所有は、100人中5人という。携帯電話サービスの企業は、4社ぐらい確かあって、現在政府系(軍、通信関係)、と最近韓国系の資本が入ってきているという。通信インフラはこれからという面もある。

しかし、前述のベトナムでの動きなどについて、ブイ・ビー・フォアング氏もこういった企業活性化、WTO加盟、FDIの増加などによって今後経済の発展と活性化とともに会議ツールの需要が伸びるのではないかと見ている。また、ベトナムが、中国を見ているのを感じた。(終わり)

### 編集後記

次号では、第三四半期の業績発表がそろそろ各企業から出てきましたので、レポートします。

CNA広告を募集中です。是非ご検討ください。提案書は以下のURLです。

[http://cnar.jp/home/CNAarchive/cna\\_ad.pdf](http://cnar.jp/home/CNAarchive/cna_ad.pdf)

11月19日に午後3時よりdtc-forum勉強会、懇親会を都内で行います。興味のある方下記メールまでお願いします。勉強会時に会議製品などのプレゼンデモも可能です。

### CNA リポート・ジャパン

編集長 橋本 啓介 [k@cnar.jp](mailto:k@cnar.jp) (CNA リポート・ジャパン Vol 6. No.17 2004年10月31日号終わり) 次号 Vol 6. No.18は、2004年11月16日の発行を予定しております。ありがとうございます。